

第1回 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進民間会議

【概要】

日時：平成24年6月11日（月） 10時30分～11時40分

場所：大阪府本庁本館5階 正庁の間

委員：設置規程別表のとおり

事務局関係出席者：

（大阪府） 大下都市魅力創造局長、西野都市魅力課長、荒井文化財保護課長

（堺市） 藤木世界文化遺産推進室総括参事役、宮前世界文化遺産推進室長

（羽曳野市） 白形世界文化遺産推進室長、中川産業振興課長

（藤井寺市） 藤田世界遺産登録推進室長 等

議題： 議題1 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進民間会議の設立について

議題2 世界遺産の趣旨と百舌鳥・古市古墳群の概要について

議題3 世界遺産登録に向けての取組みについて

【進行】

○ 事務局長挨拶

○ 委員紹介

○ 委員長・副委員長の選出（設置規程第4条第1項）

委員の互選により、委員長に橋爪委員を、副委員長に井戸委員を選出。

○ 会議の公開・非公開について

会議は原則「公開」とするが、会議の内容によって、非公開にするべき事案が発生したときは、その都度、会議に諮って確認することとする。

○ 議題1、2、3について資料に沿って事務局から説明。⇒特に質問なし

○ 各委員意見（抜粋）

◆委員

- ・ 暫定一覧の資産の中での飛び級が必要。スピード感をもって取り組んでいくこと。
- ・ 11月初旬に京都で開かれるユネスコ世界遺産条約締結40周年の記念行事に併せて、関空・大阪で歓迎行事ができればよい。

◆委員

- ・ 古墳は見ても木があるだけだなどという発言が出ないよう、機運の醸成をしていくことが必要。大阪検定の実施などの大阪人の誇りを取り戻す取組の中で関わっていきたい。

◆委員

- ・ 市街地内に史跡があることから、制約を伴う場合、地元合意をどのようにとっていくのか、バッファゾーンやコアゾーンのかけ方のスケジュールを決めていかないといけ

ない。

- ・登録されてからの問題についても併せて議論していくことが必要。

⇒ 委員長：バッファなどの計画の話などについても次回からしていきたい。

◆委員

- ・地元の経済団体としては、役員の名刺を古墳群のPR名刺にしたり、PRバッチを着用したりするなど、堺市と一体となった啓発に取り組んでいる。また、地元住民が中心となりボランティアによる百舌鳥古墳群の清掃など、古墳を保護・維持しようとする活動も盛んになってきており、今後もその活動をさらに発展させる必要があると思っている。

◆委員

- ・平成21～23年にかけて各年2回、地場産業を含めたコースでの歴史ウォークを実施（今年度も開催予定）。ホームページで自分の好きなコースを選んでもらえるようにしている。

◆委員

- ・藤井寺市への観光客も減ってきている昨今、世界遺産登録に向けて頑張っていきたい。

◆委員

- ・百舌鳥・古市古墳群の首都圏での認知度はかなり低い。東京でのシンポジウム開催や、歴史ツアーなど、今後積極的なPRによって世界遺産の取組みが広がっていくのではないか。
- ・ツアーオブジャパンやツデーマーチのコースを仁徳天皇陵古墳周辺で開催することにより、参加者や観客が古墳群に親しみ、楽しみながら、その価値を知り、機運醸成にもつながっている。

◆委員

- ・世界遺産をめざすということで、地元の活性化につながることを期待。
- ・登録にあたっては費用もかかるので、登録後の維持についてもどのような方向でいか考えていくことが今後の課題。

◆委員

- ・藤井寺市には神社、仏閣、天皇陵古墳があり、ウォークを主にした取組みをしている。
- ・世界遺産登録に向けて、まちの活性化、商業の活性化についても頑張ってもらいたい。

◆委員

- ・羽曳野・藤井寺市を中心とする南河内、堺市を中心とする西高野という観光キャンペーン組織を作り、歴史街道や古墳群を見てまわるといふ、ウォーキングイベントを年2、3回開催。
- ・大阪に百舌鳥古墳群ならびに古市古墳群、仁徳天皇陵古墳、応神天皇陵古墳があることを知っている関西圏の人の現在の割合28.7%を50%にあげていきたい。
- ・具体的には、日本各地からの協力旅行の受け入れを推進。各旅行エージェントに対して大阪関西行きの旅行の造成といったPR活動を行う。

◆委員

- ・地元の自治体と協働した、ウォーキングイベントを開催。自社発行の沿線の情報誌「P + n a t t s」(ピーナッツ)でも、レンタサイクルを利用して百舌鳥古墳群を巡ることを紹介。
- ・歴史的な資産もそれにまつわる歴史や由緒を知ること強い印象を与える。その印象が口コミとなって新しい来訪者につなげることが理想である。地元ならではのエピソードを加えながら、現地でないとは体験できないプログラムの造成やそのPR等に協力していきたい。

◆委員

- ・近鉄を利用して、土日に奈良から大阪に観光に来てもらえるよう最大限取り組んでいきたい。
- ・古市駅から古墳群を巡るハイキングを開催。世界遺産登録がなされると、色々なイベントが開催されるので色々協力していけると思う。
- ・古市駅が通勤時間帯のみであるが、特急停車駅になった。今後は、通勤時間だけでなく、昼間に観光される方が増えて、全時間帯に特急の停車駅となるのが願いである。

◆委員

- ・社内誌や駅の情報誌などで認知度をあげる点ですぐにでも色々な協力ができるのではないか。
- ・南海と協力して堺市で色々なキャンペーンを実施。登録後を考え、いかに訪れた方に楽しんでもらうか、価値を感じてリピーターになってもらうかという事を考えていく必要がある。
- ・登録により大阪の魅力が増え、関西に来る方も増えるので、関西を地盤にしている鉄道会社として、可能な限り色々協力したい。

◆委員

- ・他の資産より先に百舌鳥・古市古墳群が登録されるのがよいと思ってもらえるような全国的な盛り上がりに向けて取り組んでいく必要がある。
- ・関西空港は、世界遺産・百舌鳥・古市古墳群に一番近い空港として頑張っていきたい。

◆委員

- ・南大阪で4年から9年間を過ごす学生たちに、南大阪のたくさんの資源を気づいてもらうため、南大阪の歩き方という事業も行っている。南大阪にいる学生たちがまず、百舌鳥・古市古墳群の存在に気づくことを強化していきたい。
- ・留学生に古墳群の価値を伝えるという取組みもやっていきたい。

◆委員

- ・百舌鳥・古市古墳群をどのように可視化するか、分かりやすくするか、ということデザインしていくことで、より魅力的なものにしていけると考える。
- ・古墳群をライトアップすると、飛行機からの景観は壮大。皆に分かりやすくするため、登録に向けて、そういったことにも取り組んでいく必要がある。
- ・古墳群自体をデザインすることはできないが、そこに光をあてて体感させるよう、違

った観点からデザインしていくことで、魅力的なものであることを伝える。文化的・歴史的なものはわかりづらいが、それをちょっとデザインの観点からやってみると、話題になり、人々の興味をひく。そういうことも必要。

- ・ 3世紀、4世紀の環境が残っていることもクローズアップしていくことが求められている。

◆委員長

- ・ 実際にこの場から様々な民間の活動が広がっていく、そういう場にしたい。
- ・ 百舌鳥・古市古墳群の価値は誰もが認めているところであるが、我々は、もう一度日本全体に、あるいは世界中にその価値を発信しなおすことが必要。
- ・ 行政だけではできないことなので、是非各企業、各団体の協力、活動のベクトルをそろえて進んでいきたい。
- ・ 他の世界遺産登録をめざしている地域に負けないように、市民も企業も強く声を挙げている状況を示していかないといけない。
- ・ 11月に京都に来られる世界遺産のキーパーソンは必ず関空を通る。我々個別でいろんな方にアピールしていくことが重要。
- ・ その他、重要な節目や機会を捉えて情報共有して進めていきたいので、協力をお願いする。

◆事務局

- ・ 次回の開催は9月ないし10月を予定。
- ・ バッファゾーンの設定と地元の理解を頂く内容については、天皇家の御陵であることを大前提として、どういう取組みが可能かについても議論頂きたい。
- ・ 民間の独立した組織のあり方についても議論を賜りたい。
- ・ 各団体でも、我々が作成したロゴ、あるいはシンボルマークを活用してPRをお願いしたい。

以上